

令和3年度 府立丹後緑風高等学校（網野学舎） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（中間評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 丹後緑風高校のコンセプト「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創りだす」人材を育成する。</p> <p>2 教育目標、教育方針（育成する力）、育てる生徒像を教育活動の中に明確に位置付け、その具現化を図る。</p> <p>3 生徒信条「青年は未来を信じ使命に生きる」の精神にのっとり、将来に対する夢や目標を持たせ希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。</p> <p>4 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>（成果）</p> <p>1 広報紙発行やホームページのタイムリーな更新によって、本校の特色・魅力を広く発信できた。</p> <p>2 ICT活用やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が増え、授業評価アンケートで主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合が増加した。</p> <p>3 5分前登校が定着して、落ち着いた学習環境が維持できている。また、部活動加入率も高水準で維持できた。</p> <p>4 普通科の総合的な探究の時間では、「SIM京丹後」の取組を始めとする探究活動の充実を図ることができた。</p> <p>5 教職員の働き方改革では、退勤時間が全体的に早まるなど教職員の意識改革が進んだ。</p> <p>（課題）</p> <p>1 学舎制の推進に向けて、京丹後市地域コーディネーターの活用等、久美浜高校・久美浜学舎と一層緊密に連携を図る必要がある。</p> <p>2 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりと一層積極的な情報発信を行う必要がある。</p> <p>3 コロナ禍の中、体験的な進路学習の機会が少なく進路希望未定者が多くなっている。1・2年次から進路意識を高めるとともに、新しい大学入試に対応した実践力の養成が必要である。</p> <p>4 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、実施が可能な方法を検討し、教育活動の充実を図る必要がある。</p>	<p>1 久美浜高校・久美浜学舎との緊密な連携を図り、遠隔授業の実施、京丹後市地域コーディネーターを活用した農商連携、合同部活動の実施等、学舎制による教育の推進を図る。</p> <p>2 産官学連携による地域創生教育を推進し、地域の将来を担う人材を育成する。</p> <p>3 オリンピック・パラリンピック教育推進校として、スポーツを通して共生社会を目指す教育を一層推進する。</p> <p>4 広報活動の充実を図り、本校の特色・魅力を発信し、積極的な生徒募集を進め、本校を第一志望とする生徒の増加を図る。</p> <p>5 ICT活用やアクティブ・ラーニングによる授業改善や総合的な探究の時間における探究活動の充実を図り、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。</p> <p>6 学校行事・部活動・ボランティア活動等を通して主体的に考え、行動する生徒の育成を図る。</p> <p>7 いじめには組織的に対応し、予防や早期発見・解消に努める。また、情報モラル教育の徹底を図る。</p> <p>8 3年間を見通した系統的な進路指導により、進路意識の向上を図るとともに、希望進路実現のための基礎・基本の徹底と実践力の養成を図る。</p> <p>9 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、ステージに応じた教職員の資質能力の向上を図る。</p> <p>10 教職員の働き方改革を進めるために、教職員の意識改革と業務改善を一層推進する。</p>

評価は、次のA～Cの3段階で表記しています。

A 十分達成できている。 B：概ね達成できている。 C：あまり達成できていない。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
特色化事業	・広報活動の充実と生徒募集の拡大	・広報紙とホームページにより本校の教育活動の特色・魅力を広く発信する。 ・地元中学校への情報発信を強化する。 [ホームページの更新回数週5回、広報紙の発行回数年10回]	B	B	C	・HPは目標に近い回数で更新できた。今年度中にHPをスマホで見やすいプラットフォームに更新予定。網野中学校全校生徒に広報誌を配布した。生徒募集に向けて、インフォメーションの発行を計画中である。 [HP更新週4、1回、広報誌4回]
	・地域創生の取組とオリンピック・パラリンピック教育の推進	・地域と連携した活動に主体的に取り組むとともに、地域の魅力や課題に気づき、その発信や課題解決に取り組む。 [TACの取組年間3回以上]	C	C		・感染防止のため校外での活動が大きく制限され、活動ができていない。今後の感染状況を勘案しながら、可能になれば活動を増やしていきたい。 [TACの取組1回]
		・パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッドスポーツ等の理解を深め、障害の有無にかかわらず誰もが共に楽しめるポッチャを体験する。 [教員へのポッチャ研修の実施、生徒のポッチャ体験者の割合100%]	C			・教職員向けポッチャ体験は、1学期中に実施。生徒の体験は、各学年で2学期以降に、特別活動として実施していきたい。 [教員実施済み、生徒0%]
組織・運営	・学舎制の特徴を活かした教育活動の推進	・遠隔授業、合同部活動を円滑にすすめる。	A	B	B	・遠隔授業、合同部活動はおおむね円滑に実施できている。
		・久美浜高校・久美浜学舎と連携した取組を計画・実施する。 [学舎間連携の取組年間7回以上]	C			感染拡大に伴う教育活動の制限もあり、学舎間連携の取組はほとんど行えていない。地域コーディネーターの有効な活用も含め両学舎で検討を重ねる必要がある。 [学舎間連携の取組1回]
	・教職員の資質能力の向上	・本校の教育課題への対応と教職員のステージに応じた能力向上のための研修の充実を図る。 [センター研修の受講延べ数30回以上]	B	B		・校内研修を前期に10回実施するなど、教職員の資質向上に向けて取組をすすめている。後期には観点別評価や1人1台端末への対応に向けた研修の充実が必要である。 [センター研修受講延べ数18回(9月末)]
	・教職員の意識改革と業務改善による働き方改革の推進	・業務改善アンケート等を実施し、業務の見直し効率化を進めるとともに、19時30分までの退勤を目標とする。 [19時30分退勤率90%以上]	B	B		・退勤時間に対する教職員の意識は定着してきている。グリーンデーも一定の効果があった。一層の勤務時間縮減には、実質的な業務改善に繋がる工夫を更に検討する必要がある。 [19時30分退勤率72.6%]

学 習 指 導	生徒の主体的な学びの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的な学びを深めさせる。 〔授業評価アンケートでA・Lの視点を取り入れた主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合75%〕 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業等でA・Lを取り入れた授業が多く見られた。コロナ禍ではあるが、机間を空けるなどの対策もなされていた。 〔よくあてはまるの回答割合76%〕
	効果的な授業に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の導入に向けて、ICT機器や遠隔教育システムの積極的な活用と研修を推進する。 〔授業評価アンケートで授業内容を理解しやすいようにICT機器を利用し工夫していると回答した生徒の割合75%〕 	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特性によってICT機器の活用状況に差はあるが、昨年度と比較すると活用率は増加している。教員一人一台端末の配布が完了したら、活用に向けた研修を実施したい。 〔工夫しているの回答割合82%〕
	新学習指導要領に対応した適切な評価方法の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に向けて、適切な評価のあり方についての研修を実施する。 〔評価に関する研修3回〕 	C	C		<ul style="list-style-type: none"> ・前期に校内研修を実施できていないので、後期で確実に実施し、各教科で試行できるよう情報共有に努める必要がある。 〔評価に関する研修0回〕
生 徒 指 導	・生活や態度を調整できる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての「あいさつ、身だしなみ、礼儀・マナー、5分前行動」等の指導を全教職員で行う。 ・自分の身は自分で守る、危険回避の行動がとれる力をつけさせる。情報モラルに関する講演会・交通安全の取組を実施する。 ・薬物乱用防止に向けた取組を強化する。 〔遅刻・交通事故ゼロ〕 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての行動は、一定できている。「元気よく」があればよりよい。 ・情報モラル、薬物乱用、交通事故防止等の取組や生徒部だよりの発行を通して啓発を図ることができた。 ・薬物乱用防止について、身近でも起こりうる事象として捉えさせ、今後も徹底して取り組む必要がある。 〔交通事故0件、遅刻2件〕
	・心と体を調整できる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率を維持しながら、体力や感性を育成する。 ・生徒会活動（専門委員会）の見直し。 〔部活動加入率80%以上〕 	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動は高い加入率を維持できている。事情があって入部できない生徒へも配慮をする必要がある。 ・生徒会活動が充分に行えない中、放送・美化・保健などの委員会を中心に工夫して活動できている。 〔部活動加入率87.2%以上〕
	・人間関係を調整できる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを見逃さず、早期に対応するために、生徒の情報を教員で共有する。 ・地域貢献・キャリア教育につながるボランティアに積極的に参加させる。 〔ボランティア活動の年間参加延べ人数1,000人以上〕 	A	B		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策会議での情報共有。いじめアンケートと教員用気になる生徒アンケートで、情報共有を行っている。 ・ボランティア活動は、依然として校外でのボランティアが行えない状況下で、数字は伸び悩んでいる。 〔年間参加延べ人数393人〕

進路指導	主体的なキャリア意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者に対して大学入試改革等に関する情報を提供する。 ・進路選択、職業選択が主体的にイメージできるよう各種進路行事の実施と担任、チューター、進路指導部員等によるきめ細かな面談を実施する。 ・地元企業と連携しながら、地域を知り、地元での就職についても考えながら、職業意識を高める取組を実施する。 <p>[進路希望未定者数：1年生10人未満、2年生0人]</p>	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・早期から主体的に進路研究に取り組む生徒が少ないのが課題である。コロナ禍による制限があるが、将来を考えるきっかけとなるよう、ガイダンス等の行事を実施していきたい。 ・保護者対象の進路説明会を実施し、参加された保護者には概ね好評であったが、参加者が少なかった。 <p>[進路希望未定者数：1年生16人、2年生10人]</p>
	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・就職講習や模擬面接等、早期からの就職指導を充実させる。 ・授業、進学講習、小論文指導、面接指導等を組織的に行う。 <p>[就職内定率100%、最終進路希望調査の実現率90%]</p>	—	—		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の一般企業就職希望者については、全員が内定を得ることができた。 ・入学試験前の小論文指導や面接指導は全教員が協力をして取り組んでいるが、進路希望の実現に向けた1・2年次からの地道な学習による基礎学力の定着が課題である。
保健・安全 教 育	・健やかな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防について理解を深める。 ・外部機関と連携した講演会を実施する。 ・保健・美化委員会による新型コロナウイルス感染予防等の健康啓発活動に取り組む。 ・SCを活用した教育相談に積極的に取り組む。 <p>[講演会1回、保健委員会取組3回、教育相談・いじめ対策・特別支援教育会議毎月実施]</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会・美化委員会とも感染予防に向けて取り組めた。 ・外部機関連携の講演会は2学期以降に取り組む予定である。 ・教育相談等の会議は計画通り実施できたが、課題のある生徒への対応についてSC、SSWとの連携を更に図っていく必要がある。 <p>[講演会0回、保健委員会取組3回、教育相談・いじめ対策・特別支援会議5回]</p>
	・安全意識の向上と危機対応能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施する。 ・体育委員会・部活動部長会を中心にして、生徒の活動中の怪我予防の啓発に取り組む。 <p>[予告なし防災訓練1回、事故発生率10%以下]</p>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を11月に実施する予定である。 ・コロナ禍で部活動の禁止期間があったこともあり事故の発生が減った。 <p>[防災訓練0回、事故発生率2.7%]</p>
人権教育	・生徒の人権意識の高揚と人権問題の解決に向けた具体的な行動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームでの学習や日々の様々な活動を通じ、今日の人権問題を正しく理解させる。 ・オリンピック・パラリンピック教育を通して、共生社会の重要性を正しく認識させる。 <p>[人権に関するホームルームを各学年2回以上実施]</p>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に人権ホームルームを1回ずつ実施し、人権問題への理解を深めた。2学期以降にも実施を計画している。オリ・パラ教育を通じた人権学習がまだ実施できていないので今後の人権学習に取り入れたい。 <p>[ホームルームを各学年1回実施]</p>
	・人権三法を踏まえた教職員の認識の深化と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな差別解消法制定等の状況を踏まえた校内研修の実施により、教職員の人権意識を向上させる。 <p>[研修実施回数1回以上]</p>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招き、一人一人を大切にする同和教育・人権教育と題して教職員研修を実施し、教職員の人権意識が高まった。 <p>[教職員研修1回実施]</p>